

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970100119
法人名	社会福祉法人和告福祉会
事業所名	グループホーム郷
所在地	〒 400-0069 山梨県甲府市中村町11-18 電話番号 055-228-8119

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年10月12日

【情報提供票より】平成19年7月16日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年2月26日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人				
職員数	7人	常勤	5人	非常勤	2人	常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 1 ~ - 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		2000 円	

(4) 利用者の概要 平成19年4月1日 現在

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林野内科医院、白石メンタルクリニック、篠原歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月3日

平成11年、街中で商店、学校、公園が近隣にある理想的な環境のもと、マンションの一階部分をグループホームとして開設した。今日まで、小規模の認知症介護に真剣に取り組み、利用者と共に築き上げた自信は揺るぎないものがある。また隣接のデイサービスの機能を共有し、生活の場を広げている。職員は、利用者一人ひとりの顔色や息づかいを肌で感じ、家庭と同じ介護を提供してきた。今後、平成18年度から地域密着型サービスに位置づけられたことをきっかけに、地域との距離を縮め、利用者地域住民との接点を作り出す等、事業所の取り組みに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 建物のハード面や地域との関わりなどが、改善点の中にあげられ、運営推進会議に図られているが、改善には至っていない。しかし、運営者は問題点を十分認識した上で、逆によい面としても捉え、家族と同じ介護を提供することを主とし、認知症ケアへの自信ともなっている。今後、利用者がその人らしく暮らせるように、地域との関わりなども含め、検討課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員の交代時と重なり、4回目のサービス評価に伴う自己評価が、今回は深く取り組まれていない。運営者や管理者は、評価への取り組みを職員に伝え、一つひとつの項目に注目し、事業所の質の向上にむけ積極的に取り組んでいただきたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前回の評価で、事業所が分かるような看板がなく、地域の中にとけ込む取り組みが必要であることが改善点にあげられ、運営推進会議にかけ検討課題として話し合われた。しかし家族の意見を尊重したり、まだ地域に偏見視があることなどから、踏み切れない事などが話し合われ、現状を保つ方針が支持されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 少人数の長所として、利用者の家族がどのような不安や意見を持っているかを、電話や来訪時に個々に聴きとり、柔軟に対応が出来る。また、苦情などは事業所の担当者や、法人全体にも在宅管理部が設置され、どんな相談も受けもらえるような窓口が設けられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として自治会に入り、夏祭り、公園の清掃など地域の行事や活動に参加している。また同地区内にある、法人主催の恒例の行事にも参加し、幼稚園や地域住民との交流はなされている。しかし、地域に偏見があったり、家族の強い要望を優先することから、地域との交わりは難しい課題と事業所は捉えている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム郷

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成11年、開設当初のグループホームへの期待や役割を盛り込んだ理念は今でも生きついでいる。これに平成18年度の改正介護保険法で新設された地域密着型サービスの役割や地域との関係性を重視した理念はこれからの課題となっている。	○	8年の歳月の中で馴染んだ理念に、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」の基本方針も組み込み、地域とどのような関係性を持つか、果すべき役割はなにか等を課題に据え、新しい理念を作りあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	まだ、新しい理念が出来上がっていないこともあるが、管理者や職員の交代時であることから、日常の業務やミーティングなどで理念の共有は、図られていない。	○	運営者、管理者、職員は、新しく練り上げた理念に、誇りと愛着を持ち、利用者と地域住民との関係性の基盤づくりの役割があることを念頭において、取り組んでいただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として地域の行事や活動に参加し、また、恒例の法人主催の行事には、地域へ呼びかけ、幼稚園児や地域の人と交流は図られている。しかし地域に偏見視や家族の強い希望を優先するため、接点が少ない。	○	地域密着型サービスが位置づけられたを機に、利用者が地域にその人らしく暮らせるように、地域との接点をもう少し積極的に広げていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価はハード面の指摘が幾つか見られるため、家族的な暖かいホームをモットーにしているこの事業所では、難しい問題として受け止めてはいるが、改善には至っていない。	○	事業所の現状を、運営者、管理者、職員で話し合い、自己評価に取り組むことや、外部評価を前向きに受け止め、事業所の質の向上に活かしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所は昨年の外部評価で指摘された、ハード面の改善点を運営推進会議にかけ、参加者に意見を聞き、事業所サイドの事情などが検討されている。しかし、19年度は開催が見送られている。	○	運営推進会議を2ヶ月に一回程度開催し、外部の人の目を通して、事業所の取り組みや、外部評価の結果を公表し、改善課題を話し合う機会としていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として市の高齢福祉課との関係は築かれている。利用者の認知度の変更や状態の変化があったときなど、すでに市との連携は取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	少人数でもあり、利用者の様子や心身の状況判断は常に確かな把握をし、その報告は面会の折や、電話などで随時報告されている。また、金銭管理も個々に整理され、残高の報告など家族へしている。		訪問時や電話などのほかにも、利用者の生活の様子や表情の動きなどを写真や手紙などで伝え、また、家族の要望や悩みなどを言い合えるような信頼関係をより一層深めていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談などの窓口は設けられている。また、法人独自のサービスとして、どんな悩みや相談も受け付けており、利用者の家族は気軽に相談でき、対処もされ記録に記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員は、隣接するデイサービスで利用者と同顔馴染みの関係を築き上げ、日常の介護に当たっている。ただ、前任の管理者の異動時に、利用者への影響が大きかった。現在は、デイサービスの管理者が兼任である。		少人数の事業所は、職員の交代時に影響があるため、職員の異動には配慮がのぞまれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中間の職員の研修はなされてはいるが、研修内容を職員同士共有するような勉強会はない。働きながら介護の技術を学んだり、新任の職員に教えたりと、職員同士の前向きな姿勢は伺える。	○	中間職員の研修はなされているが、現場職員の研修は少ない。職員のローテーションに配慮しながら、外部・内部の研修を計画し、より一層職員の介護の質の向上を図っていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加している。また、個人の枠で同じ立場の同業者と話し合う機会は作られつつある。しかし、同業者との交流には多少違和感があり、まだ積極的には取り組んでいない状況である。	○	同業者同士、サービスの質をお互いに高め合うことへのステップを、どのように踏み出すか、今後の課題として取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接のデイサービスを利用中、本人の状態や家族の希望を聞き、入居となるケースが多い事から、安心した生活支援がなされている。また、利用者の状況により、家庭訪問したり、見学や、おためし入居など、柔軟な対策がとられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少人数の長所として、本人と共に支えあう関係は自他ともに認めるところである。職員は年長者であることへの配慮をしながら、家族の一員として支えたり、教えられたりしながらよい関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や個性を大切に、本人や家族から希望を聴き、一人ひとりにあった生活支援に当たるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の日誌や夜勤者の記録が月ごとにまとめられ、介護計画は立てられているが、計画作成担当者が不在のため、職員が代行している。この状態は、スタッフ全員の話し合いやミーティングなどが反映されていない。	○	現在は異例の形がとられているが、介護計画作成担当者を置き、利用者や家族、関係者などの意見を集約し、利用者がよりよく暮らしていくための課題を探り、介護計画が作成される事が望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が見られたら、随時、問題点や課題は把握されている。現在は6ヶ月に一回の見直しとなっているが、担当者が不在である。	○	見直しも介護計画作成担当者を置き、家族やケア関係者の話し合いや気づきを臨機応変に見直し、安定しているような場合でも、月一回程度は遂行状況や効果などを確認することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望で自宅に帰り、一日見守りをしたことや、家族の希望により病院の受診などの送迎の経緯はある。運営者は、要望があれば多機能を活かした支援は前向きに捉えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携している医者以外に、家族の希望するかかりつけ医の医療を受けることができる。受診結果についても事業所側も把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームの特性を必要としている人に、できるだけ利用してもらいたいという観点から、入所の際に重度化した折は、地域内にある同法人の介護老人福祉施設の利用となる事が契約されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者、管理者、職員の全員が、プライバシーの保護に気配りしている。利用者への言葉使いに、尊敬する人への心遣いや、一緒に食事をしながらほほえましいサポートが来ていることから伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内のハード面の事情などもあり、その人らしくどのように支えるかを、管理者や職員はいつも考えている。隣接のデイサービスの機能の活用も視野に入れ、利用者の状態に合わせるような支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一つの家族のように利用者と職員が一緒になって、調理や盛り付け、配膳など支援している。食前に感謝をこめてのお祈りの後、職員も一緒にサポートをしながら食べるという事が、ごくあたり前となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所内にシャワー室はあるが、同じ敷地内にあるデイサービスのお風呂に、一日おきに入浴の支援をしている。日常は、ある程度ゆるやかに職員の付き添いのもと支援を行っている。		現状での入浴を支援する中で、本人の習慣や希望を聴き、体調や羞恥心に配慮しながら、より良いケアにつなげていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	数の計算の速い人、歌のリーダーシップを得意とする人、調理の下ごしらえ、盛り付けなど潜在能力を発揮する人もいる。また、食事前のお祈りは、その人の生活歴を支援する事でもあるが、周りにもよい影響がでている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、隣接のデイサービスの仲間と一日一緒に過ごす日があったり、近隣のスーパーや公園、買物や散歩に出かけている。また、おしゃれをして外出する機会も設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の一人ひとりの行動がすぐに把握でき、玄関の入口は常に職員の間があり、鍵をかけない自由な暮らしの支援がなされている。各居室は庭に面し、自由に出入りできるが、安全のためフェンスで囲まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定し年2回避難訓練をしている。地域協力隊(7名)があり緊急時には駆けつけてくれる。隣接のデイサービスが地域住民の避難場所に指定されており、食材や水等の備蓄もしている。緊急時連絡網、非難経路など職員に周知している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者5人の健康状態や好みなど全部把握しており、栄養バランスを考えながら献立を立て、隣接の管理栄養士のチェックを受けている。水分量は1日1500ccを目安に、体調や状態に応じ摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた共用空間を、このホームの良さに転換し、利用者の息遣いや表情の変化など家族のように察知し、適した対応がすぐにとられている。このハード面の問題点を、運営者や管理者や職員は、よく認識している。	○	運動面の不足や事業所で行えないレクリエーション等は、隣接のデイサービスが利用されているが、毎日の生活の場である事業所の共用空間について、残された可能性はないかを検討していただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態により、家具や個々の好みの物が置かれていたり、壁には写真や孫の書いた絵が飾ってある。馴染みの物を配置したり、ベッドを置いたり経過の中で、危険防止もあるがやや殺風景でもあった。		職員は、利用者の状態の変化に合わせ、その人らしく居心地のよい居室になる心配りを、家族と共に続けていただきたい。